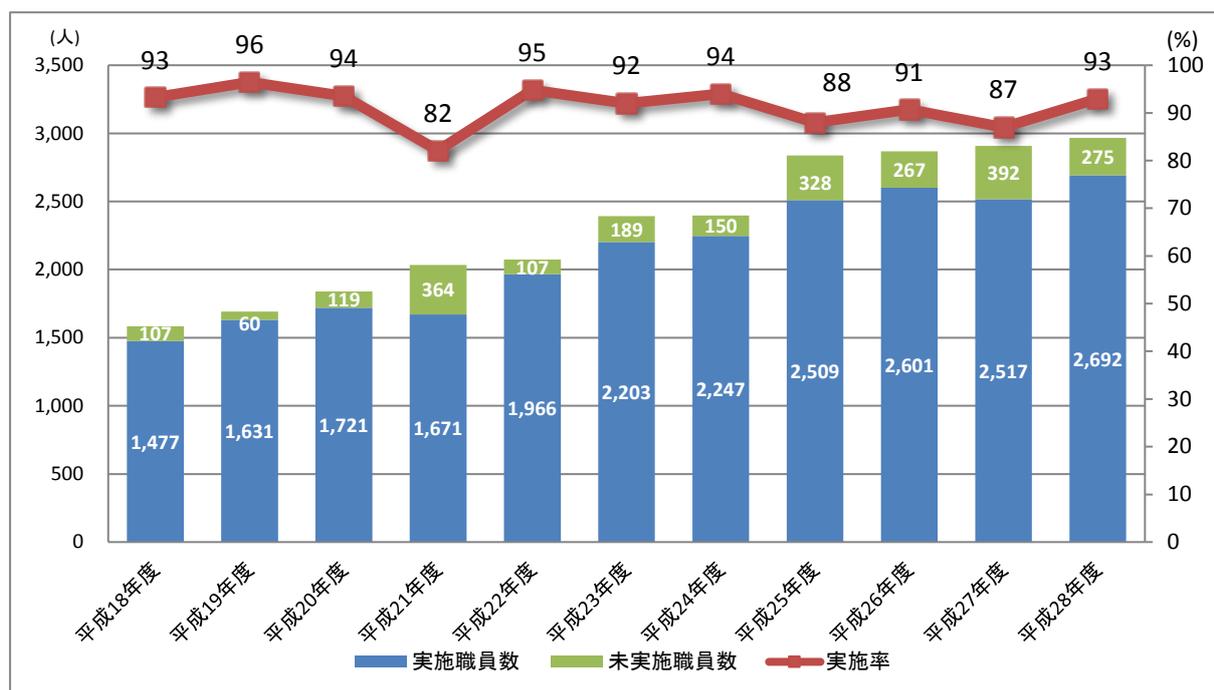


38. 職員のインフルエンザワクチン予防接種率



病院職員のインフルエンザワクチン接種率は、患者の安全にかかわる問題である。病院職員の罹患は、病院を受診する患者への感染機会を増やすこととなるため、注意を払わなければならない。罹患した職員の業務は制限されるが、そのことで各職場の人員不足を招くこともある。予防接種率を上げることで、罹患の可能性が減少し、重症化も抑制される。

当院のインフルエンザワクチンの接種率は、他院で接種された人は含まれていないが、それでも一般の接種率や他施設で公開されている接種率（80~90%）と比較しても同等かむしろはやや高い数値である。これは健康管理室の指導力や各部門の組織力、自覚の高い職員が多いことなどが要因であると考えられる。

データ提供 法人本部健康管理室